

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を
Engage Rotary Change Lives



個々の価値観を尊重し
自らロータリーを楽しもう

国際ロータリー会長 ロンD. バートン

2013~2014

富津中央RC会長 須藤 隆

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2321 第20回例会 2013. 11. 21 晴

点 鐘 : 須藤 隆 会長

進 行 : 大網庄一郎 SAA

ソング : それでこそロータリー

お客様 : 木更津 RC 会長 重城明男 様

木更津 RC 幹事 吉川敏孝 様

木更津 RC 重城敬子 様

米山記念奨学委員会 委員

千葉幕張 RC 吉田広行 様

米山奨学生 ムン・クバト 様

親クラブである木更津ロータリークラブ会長の重城さんと幹事の吉川さん並びに会長の令夫人でロータリアンの重城敬子様です。会長の重城さんは皆さんもご存知の岩根にある重城病院の院長で奥様の敬子さんと共に現役医師として活躍されております。

幹事の吉川さんは東証一部上場の日本鑄鉄管株式会社の社長を退任した後、NPO 法人環境フロンティア21を立ち上げ、現在会員100人ほどの代表を務めております。私事で恐縮ですが、このお二人とは私は大変縁が深く、重城さんとは高校3年の時、同じクラスで机を前後して1年間一緒に過ごした間柄であります。また吉川さんとは大学1年の時から現在までの50年以上、親しい友人として付き合い合っておりまして、現在も年数回夫婦で食事をする間柄であります。

また、幹事の山田さんが重城病院の顧問をされている縁もあり、両クラブの会長幹事が取り持つ縁が今日の訪問につながったと思っております。とはいえ、私ども親クラブの会長幹事さんの訪問は私どもクラブにとっては大変有難いことであり、心より歓迎する次第であります。後程木更津ロータリークラブの現況等をお聞かせいただければと思います。

さて、先週はガバナーが訪問され、ガバナーとの協議会がありました。その中でガバナーは会員増強について大変力説され、できれば現在の21名から25名ぐらいまで増やしてほしいと要望されました。

会長挨拶

須藤 隆 会長



皆さんこんにちは。

先ずはお客様を紹介いたします。最初に千葉大学博士課程で中国の内モンゴル出身のムン・クバトさんと米山記念奨学委員会委員で千葉幕張ロータリークラブの吉田広行様です。ようこそお出で下さいました。後程卓話をよろしく願いいたします。

それともう一組のお客様を紹介いたします。私どもの

〒293-0042 富津市小久保2868

さざ波館 Sazanami-kan

2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,

Zip code 293-0042

Tel.0439-65-3373 Fax.0439-65-3304

URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



当クラブは先日の地区大会では会員増強で表彰されたとは言え、ここ数年、増強への努力にもかかわらず、退会者の補充をしながら20名前後の会員を維持している状況であり、今年度は増員目標を3名として努力しているところであります。ガバナーから住職さんやお医者さんへのアプローチをしてみたらどうかとのサジェスションもありました。

今年は榎本増強委員長の方針で、会員をグループ分けして、いろいろな視点からのアプローチを模索中であります。入会を勧誘するに当たっては入会候補者がロータリーに魅力を感じてもらうことが最も大切であり、そのためには私たちの例会を含めた日頃の活動内容の充実も会員増強には欠かせない要素と思います。

全員で会員増強の目標達成に努力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

幹事報告

山田 昌雄 幹事



先週は関口ガバナーの来訪で、いろいろ御指導を受けましたが、その際に浦安の漁業の歴史を浅い知識の中でお話しました。まさかガバナーが浅利屋の息子とは思いませんでした。浦安で有名な小料理屋「橘屋」を「橘」と言った間違いを指摘され恥いった次第ですが、30年も前の事なのでお許しただけだと思います。

さて、今日は木更津ロータリークラブ会長、令夫人、吉川幹事の来訪、心から歓迎いたします。

そこで今日は木更津と富津の関係を「釣り」の面から少しお話しします。古老の話をまとめたもので、史実とは違っていることが多いかも知れませんが、本当のことは歴史家の先生にお任せします。

「江戸前」という言葉は良く御存知と思いますが、江戸時代には今でいう漁業としての釣りはなかった

そうです。房総南部の釣りの歴史は、実は木更津の桜井から始まっています。昔の請西藩です。幕末には、林忠崇という殿様自らが脱藩し、幕府遊撃隊に加わったことで有名になりました。「ごいっしん」で改易になった唯一の藩だそうです。

その桜井で考案されたのが「ふかせ釣り」流し釣りのことですが、鉤に鉛を埋め込み「てんや」という表層3～5mを流して鱸を釣る釣法です。なぜこれが勝浦に伝わっているのでしょうか。

さて、我が富津ではこれに改良を加えて「しゃくり釣り」を完成しました。てんやという錘を使うのは同じです。三日月型の鉛を底から3～5mへ流し出して鯛を釣るやり方です。将軍家への献上鯛は幕末まで続いたそうです。

一方、外房では潮の流れが速いため、この釣法は役に立ちません。「紀州びしま」といって、テグスに約30cm間隔で小さな鉛をはさみ込み、潮に垂せる釣り方です。紀州から多勢の移住が大原にあり、大正時代の11人を最後に途絶えたと聞きました。

以上、木更津との関係をお話ししましたが、これはあくまで古老の言い伝えです。

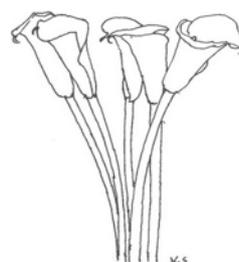
さて本題は簡単です。

1. 地区大会への参加、ガバナー訪問に対するお礼がありました。
2. 日台ロータリー親善会議シアー案内がありました。(詳細はまだ不明)
3. 2014年国際ロータリー年次大会(シドニー大会)参加募集がありました。

以上は回覧しておりますので何かあれば幹事まで申し出てください。

4. 例会変更 (君津ロータリークラブ)

11月25日(月)の例会は11月24日(日)に変更



カララ

木更津RC会長御挨拶

木更津 RC 会長 重城明男 様



みなさんこんにちは！

富津中央ロータリークラブを、同い年の従兄の吉川幹事と妻と3人で訪問でき、大変うれしく思っています。

私共は富津中央ロータリークラブ、および富津とは大変ご縁がありまして、私は須藤会長とは木更津高等学校の同級生でしかも山田幹事には特別養護老人ホームの運営でお世話になっています。

須藤会長と吉川幹事とは大学時代に偶然知り合うこととなり、以来親しく交際を続けていらっしゃると聞いています。

又、江戸時代の代表的歌人の小林一茶と親交のあった富津の織本家とは親戚関係であり、儒学者の東岳の孫が伯父にあたります。

今日はクラブ運営の改革等、少数精鋭で楽しいクラブを目指して頑張っておられる皆様にお会いし、勉強させて頂くことを楽しみにしてまいりました。

私どものクラブは60年前千葉クラブをスポンサーとして県下で2番目、関東で4番目にスタートしました。しかし、年数を重ねるに従い、多くの問題点が噴出してきました。今年は全員参加のクラブを目指してクラブ内の改革に取り組んでいます。事務の合理化対策費や奉仕活動活性化費等を設け、会員の親睦、奉仕活動の積極参加、真のロータリー活動を理解し、ロータリアンとしての自覚の醸成、クラブ内横断の勉強会や各種親睦会の応援支援等に力を入れています。

今回お配りした小冊子は例会時の会長挨拶として何回かに分けてお話した「ポールハリスについて」と「木更津ロータリーの歴史」をまとめたものです。ロータリーの歴史を学ぶことにより「古きを学び、新しきを知る」ことの大切さを身をもって感じる事がで

きました。ご参考になればと思います。

私共のクラブにぜひお越しください。お待ちしております。

雑話

「良き木更津」

チャーターメンバー 志波 克 会員



木更津クラブの重城会長御夫妻、吉川幹事には当クラブへのご訪問有り難うございます。又、米山のお話を頂く地区委員、奨学生のお二人には遠路ご苦労様です。後程のお話を楽しみにしております。

須藤会長より、親クラブの会長幹事さん御来訪の機会に当クラブ創立当時の話をするようにと言われましたので、本日は行事の多い中、少しお時間を頂戴します。

昭和30年代前半から私は家業の製綿卸業に携わり、当時の内房中心都市木更津は主要商圈で、一日3往復することも珍しくありませんでした。

そんな時、何かの奉仕活動だったのでしょいか木更津ロータリークラブの看板を見つけ、何かすごいハイソサエティが木更津にもあるのだな、と思ったことを記憶しています。

10年程して、我が大佐和町にも木更津 RC のお世話でロータリークラブができることになり、ゴルフでお付き合いを頂いていた笠原初代会長にお誘いを受け、雲の上の存在と思っていたロータリアンにさせて頂きました。

当時は出席が厳しく、親クラブの木更津 RC は常時100%の出席率でしたので、当クラブも殆ど100%でした。最若年会員としては欠席の先陣を切るわけにも行かず、木更津クラブには頻りにメーキャップしました。

そんな時、普段ではとても近づけない名士の方々から意外と気軽に声を掛けて頂き、大変嬉しく

思ったものでした。

それから約50年、いつの間にか最年少から最年長に変わり、昔は少し大変だと思った例会出席が楽しく、待ち遠しいものになりました。先輩や同年の仲間が少なくなる中、変わらず様々な刺激を与えてくれるロータリーを本当に有り難く思います。

この様な場を与えて下さった親クラブの木更津RCには深く感謝申し上げます。

米山記念担当挨拶

米山担当部長 原田 雅式 担当部長



今日は本部、米山記念奨学委員会の吉田さん、内モンゴル自治区(中国)留学生ムン・クバトさんを迎えての卓話となります。

先週はガバナーを迎えて、クラブ協議会が開催されました。米山の件で質問しようと思いましたが、あまりにもスムーズに協議会が進んだものですから、質問のタイミングをなくしました。

今日は、本部の吉田さんから詳しい米山のお話が聞けるのではと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



水仙

ご挨拶

地区米山記念奨学委員会

委員 吉田 広行 様



私は、地区米山記念奨学会、理解促進、寄付金担当を仰せつかっております千葉幕張 RC の吉田と申します。諸先輩の皆様の前で失礼な点、多々あるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

米山記念奨学事業は、皆様から毎年頂く寄付で支えられています。2012-13年度寄付金収入は13億2500万円(前年度12億9500万円)でした。奨学金や地区、世話クラブ・学友会への補助費など、事業にかかった費用は13億5900万円で不足分は流動資産で補いました。特別財産の取り崩しはせず、2013年度から採用数800人から700人に縮減しています。事務費や人件費などの管理費支出は、資産の利子収入でまかなっています。

当2790地区では、本年度は全国平均を上回り、そして少しでも多くの奨学生を迎えたいと、米山地区委員で奨学生を連れ卓話のお時間を頂き、感謝とお礼の気持ちをロータリアンの皆様に伝える為、本日お時間を頂きました。

60年続く米山記念奨学会の素晴らしい事業と世界平和の架け橋となる奨学生を育てる為にご理解をお願いいたします。クラブ会長をはじめ、米山委員長、会員の皆様ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。私の説明では言い表せない事、言葉不足など多々有りますので、10月配布された豆辞典、米山奨学会ホームページで分かりやすく説明されております。入会のまだ浅い会員の皆様とくにご覧になってご一読下さい。

本日は、成田ロータリークラブでお世話になっているムン・クバトさんを卓話にお連れいたしました。

米山記念奨学生卓話

「内モンゴル自治区の話」

米山奨学会奨学生 ムン・クバト 様



内モンゴル自治区は中国の北部に位置し、モンゴル国に隣接しています。

総面積は1,183,000km²で、日本の3倍です。人口は23,840,000人です。その中で漢族が79%、モンゴル族が17%で、その他に満州族、回族、ダウール族が居住しています。

内モンゴル自治区と言っても自治区全土ではモンゴル族が2割を満たない状況です。牧畜地域にはモンゴル族の人口が比較的高い割合をしめています。例えば、西ウジムチンの場合、モンゴル族が68%をしめて、とても高い割合をしめています。牧畜地域に行けば行くほどモンゴル人の人口が比較的に高い割合をしめます。

では、牧畜地域の四季をみてみたい。牧畜地域では春の一番大事な仕事は家畜の出産である。それは五畜(馬、牛、ラクダ、羊、ヤギ)の出産である。牧畜民は家畜に頼って生活を営んでいるので、家畜をととても大切にします。また、夏先には家畜の毛刈りでとても忙しい時期があります。ヤギからカンミアを取り、羊とラクダの毛刈りを行います。それを売れば収入になります。夏になると、乳製品作りが本格的になります。家畜の乳を搾り、飲み物、チーズ、バターなども作り、貯蔵します。近年は馬の乳がとても人気を集めています。それは馬の乳を搾り、発酵させて飲み物にします。栄養分が多いので市場価格も毎年上がっています。

夏にはやはり祭りです。モンゴル語で祭りのことを「ナーダム」と言います。祭りではモンゴル相撲、馬のレース、弓ひきが基本的な種目です。馬のレースは基本的に子どもが乗り、長距離を走ります。大規模の祭りであれば、30キロの片道を走ります。

また、馬の年齢や馬の走り方でいくつかの種目に分けて、距離も変わります。レースに参加する馬の数や祭りの規模によって、ベスト8～32位に走ってきた馬の持ち主が表彰されます。賞品には家畜、お金、品物などがあります。近年は祭りに音楽祭、馬の文化祭などもあり内容が多様化しています。

秋になれば、家畜餌用のための草刈りが行われます。それは8月中旬から9月下旬まで続きます。各家庭は自分の持っている家畜の数によって貯蔵する草の量が違います。また、秋には春から大事に育ててきた家畜を売ります。それは一年のもっとも大事な収入源です。

冬になれば家畜の屠殺があり、各家庭の冬用食肉を貯蔵します。

次にモンゴル人の民族衣装について話します。モンゴルの民族衣装は、布、絹、毛皮を素材につくり、季節によって使用する素材が異なります。

ウジムチン地域では素材の違いから着物をチャムチ、テルリグ、ジャブチャ、デールと分けています。帽子、着物、ブーツが一セットになります。モンゴル衣装は子ども用、大人用で色も華やかでデザインも地域によって様々です。

近年は、内モンゴルでは経済的発展、開発の名目で自然生態、文化生態が変わりつつあります。私は、教育、言語教育の視線から内モンゴルの実態をみていきたいと思います。

委員会報告

大網 庄一郎 社会奉仕担当部長



12月5日の「さきくさ訪問」について

- ① 11月28日例会終了後、全員で合唱する第九(アン・ディ・フロイデ)の練習をします。
- ② 12月5日当日の日程は、次回例会の時に(11月28日)発表します。

ニコニコBOX

高橋裕之 親睦担当委員

須藤、山田、大網、若鍋、平野、小野、白石、高橋
渡辺、榎本、志波、千葉

お客様をお迎えして

*重城 明男、敬子御夫妻様

始めて例会に出席させていただきます。

*吉川 敏孝様

貴ロータリー例会に出席させて頂き、
ありがとうございます。

原田 雅式 米山委員会(地区)役員 吉田広行様

留学生(ムン・クバト)さんをお迎えして

高橋 裕之 11/15~17南房総市岩井の民宿に

SAXの2泊3日 music camp に参加
してきました。

* >1,000円 合計 35,000円

出席報告

白石幸久 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	21/18	15	3		83.33%
前回	21/18	15	3		83.33%

ムン・クバトさんより

卓話資料画像

写真1:馬の乳搾り



写真2:馬のレースで優勝した白馬と持ち主



写真3:モンゴル相撲力士



写真4:羊の毛皮で作られたモンゴル民族衣装

